

2017年度 研究センター事業報告書

研究センター名	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所
研究センター長名	杉橋 隆夫

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

1) 学術研究事業

2017年度は、各運営委員や研究員による個別の研究のほかに、「白川静先生没後十年記念事業」として、学内外の諸機関と連携して活動を行った。おもな活動は、以下の通りである。

- ① 白川静没後十年記念出版『対談 私の白川静』を2017年10月30日に刊行した。2016年10月に行った「白川静先生を語る会」の対談を基に加筆・再校正し、未発表の写真も収録された。著者は芳村弘道（副所長）、津崎史氏（白川先生ご長女）、西川照子氏（平凡社『白川静の世界』編者）、編者は立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所。
- ② 研究成果報告会を、2017年4月22日に衣笠キャンパス（平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム）において開催した。報告会では副所長芳村弘道の司会により、研究所員萩原正樹・高島敏夫・大形徹・佐藤信弥・久保裕之より各グループの研究・実践成果が報告を行った。同日、第11回白川記念東洋文字文化賞の表彰式が開催された。優秀賞に笹原宏之氏（早稲田大学教授）、奨励賞に成田健太郎氏（東京大学特任研究員）の2名が受賞となった。
- ③ 記念講演会「漢字と書一日中韓のはざまと女性」を、2017年12月16日に衣笠キャンパス（創思館カンファレンスルーム）において開催した。最初に、書家の華雪氏に筆で白川博士が好んだ「遊」「藝（芸）」2文字の揮毫が実演された。引き続き、張莉（大阪教育大学准教授）、華雪（書家）、金津日出美（文学部准教授）による鼎談が行われ、日中韓における漢字文化のあり方についての論議に、会場に集った学内外の参加者が熱心に耳を傾けました。
- ④ 国際交流活動では、12月9日に南京大学域外漢籍研究所が主催した「第五回東亜漢籍交流国際学術会議」に参加し、同研究所および韓国の高麗大学校漢字漢文研究所と相互に学術交流協定を締結した。
- ⑤ 白川学の啓蒙・普及・人材育成活動として、土曜講座「白川学の展望と未来」（2017年9月）、JMOC講座「白川文字学への招待—漢字と東洋の歴史文化」（2018年3月）を実施した。JMOC講座は、全国より多数の申込があった。
- ⑥ 高島敏夫客員研究員による連続講座「甲骨文（卜辞）を通して殷代社会に分け入る」を、3回開催した。第1回殷人の生活自然神（7/1）、第2回殷人と祖霊への恐れ（10/21）、第3回古代殷王朝の宗教的な社会秩序（1/13）。
- ⑦ 10月からは、白川静博士の「文字講話」全24回の特別上映会を毎月開催し、白川文字学の普及を図る継続活動とした。また、「研究所紀要11号」（2018年3月）、「漢字学研究第五号」（2017年9月）の刊行を行なった。

2) 文化事業

- ① 体験型漢字講座「漢字探検隊」を全国5府県で11回開催し延べ、約1000名の参加者があった。また漢字講座やワークショップを計20回開催し、のべ800名の受講者があった。2006年度から全国で開催している体験型漢字講座「漢字探検隊」は2018年3月末現在で通算実施回数が177回に上っている。また（公財）京都市生涯学習振興財団との共催で、シンポジウム「東洋の漢字文化と白川静」を開催し、550名の聴衆があった。
- ② 漢字教育士資格認定事業について、漢字教育士認定者数は2018年3月末で累計603名となり、その活動拠点は全国そして海外に広がっている。
- ③ 産経新聞社との共催による「第8回創作漢字コンテスト」は、全国から1万3584点の応募があった。立命館附属校からの応募も多く、今回は最優秀賞を立命館守山中学校の生徒が受賞している。また、立命館学園附属校教員による「白川式漢字学習法ワーキング」では次のような活動を行っている。『成り立ちで学ぶ漢字ワークシート35』第3集の刊行に向けて、研究会での検討を重ね2018年度に完成の予定である。併せて、立命館学園附属校にて、ワークシートを用いた授業やiPadを用いた新教材の開発など様々な取り組みを行なうと共に「白川静パネル展」を実施した。附属校・提携校の中での白川静・白川文字学への認知は急速に高まっている。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	客員教授	
運営委員	加地 伸行	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	芳村 弘道	文学部	教授	
	上野 隆三	文学部	教授	
	萩原 正樹	文学部	教授	
	松本 保宣	文学部	教授	
	石井 真美子	文学部	教授	
	大形 徹	衣笠総合研究機構	客員教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	前田 亮	情報理工学部	教授	
	湊 宣明	テクノロジー・マネジメント研究科	教授	
	後藤 文男	大学院教職研究科	准教授 立命館小学校学校長	
	長谷川 昭	立命館小学校	副校長	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	Batjargal Biligsaikhan	総合科学技術研究機構	専門研究員
		田中 誠	衣笠総合研究機構	専門研究員
		余 筠珺	アジア・日本研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上在籍院生			
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	山田 崇仁	文学部	非常勤講師
高島 敏夫		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	
増井 寛也		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	
吉田 甫		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	
落合 淳思		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	
上島 理恵子		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	
久保 裕之		社会連携課	専任職員	
客員協力研究員	笠川 直樹	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	
	小寺 誠	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	
	津崎 幸博	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	
	富 嘉吟	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	
	庄 捷淳	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	
	李 日康	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員	

客員協力研究員	松川 雅信	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	佐藤 信弥	大阪府立大学	客員研究員
	高田 宗平	大阪府立大学	客員研究員
	重信 あゆみ	大阪府立大学	客員研究員
	佐々木 聡	大阪府立大学	日本学術振興会特別研究員PD
	水野 杏紀	大阪府立大学	客員研究員 関西医療大学非常勤講師
	馬越 靖史	京都外大西高等学校	非常勤講師
	阪谷 昭弘	私立花園高等学校国語科	教諭
	松宮 貴之	佛教大学	非常勤講師
	末次 信行	千里金蘭大学	教授
	村上 幸造	大阪工業大学知的財産学部	客員教授
	洲脇 武志	実践女子大学	非常勤講師
	白須 裕之	京都大学人文科学研究所	研究員
	横大路 綾子	京都西山高校	非常勤講師
	高橋 あやの	関西大学	非常勤講師
	張 莉	大阪教育大学	特任准教授
	安永 知晃	関西学院大学文学研究科大学院	研究員
	松井 嘉徳	京都女子大学文学部	教授
	大野 裕司	大連外国語大学	外籍講師
	その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	谷口 義介	摂南大学
花田 卓司		手塚山大学	講師
唐 元		防災科技学院人文社科系	副教授
臧 克和		華東師範大学校	終身教授
三輪 健介		岡山大学	客員研究員
武田 秀夫		追手門学院大学	元教授
辻尾 榮市		大阪府立大学	客員研究員
湯浅 邦弘		大阪大学大学院文学研究科	教授
草野 友子		京都産業大学	非常勤講師
中村 未来		福岡大学人文学部	講師
福田 哲之	島根大学教育学部	教授	
秋山 陽一郎	大阪府立大学	客員研究員	
王 睿	河南農業大学	講師	
曹 方向	安陽師範学院文学院	講師	
研究所・センター構成員 計 61 名 (うち学内の若手研究者 計 3 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	芳村 弘道	対談：私の白川静	共著	2017年10月	エディショナルシーブ	津崎史・西川照子	
2	萩原 正樹	宋人文集の編纂と伝承	共著	2018年2月	中国書店	東英寿・浅見洋二等	pp.167-193 pp.317-349
3	大形 徹	美容と東洋医学；人間美と健康美の原典	監修	2017年10月	静風社	王財源	全264頁の監修と「監修を終えて」部分
4	前田 亮	情報アクセス技術入門：情報検索・多言語情報処理・テキストマイニング・情報可視化	共著	2017年8月	森北出版	西原陽子	
5	高田 宗平	解題集・第一集 年號勘文基本資料解題・元秘抄解題	共著	2018年1月	『日本漢學珍文獻集成 年號之部』第一冊、上海社会科学院出版社	水上雅晴・石立善主	pp.29-51
6	高田 宗平	解題集・第一集 年號勘文補助資料解題・迎陽文集解題	共著	2018年1月	『日本漢學珍文獻集成 年號之部』第一冊、上海社会科学院出版社	水上雅晴・石立善主・福島金治	pp.69-99
7	高田 宗平	図録編・宋版「12. 漢書 100巻(分10巻)(解題)」	共著	2018年2月	宮内庁書陵部蔵漢籍研究会編『図書寮漢籍叢考』汲古書院		pp.106-107
8	高田 宗平	図録編・宋版「崔舍人玉堂類藁 20巻 西垣類藁 2巻 目1巻 附録1巻(解題)」	共著	2018年2月	宮内庁書陵部蔵漢籍研究会編『図書寮漢籍叢考』汲古書院		pp.216-217
9	佐藤 信弥	中国古代史研究の最前線	単著	2018年3月	星海社(星海社新書)		
10	高島 敏夫	西周王朝論《話体版》	単著	2017年12月	朋友書店		
11	洲脇 武志	中国史書入門 現代語訳隋書	共訳	2017年5月	勉誠出版	中林史朗・山口謠司・池田雅典・大兼健寛・田中良明	
12	小寺 誠	金子みすゞの詩とこころ	単著	2017年11月	清風堂書店		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	芳村 弘道	董康『書舶庸譚』九巻本譯注(八)	単著	2018年3月	『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』11号		pp.73-98	無
2	萩原 正樹	森川竹溪年譜補訂	単著	2017年11月	中国藝文研究会、学林、第65号		pp.82-116	有
3	萩原 正樹	橋本循著作集第二巻解題	単著	2017年12月	一般財団法人橋本循記念会、『橋本循著作集』第二巻		pp.535-537	無
4	萩原 正樹	『和晏叔原小山楽府』をめぐって	単著	2018年2月	中国書店、東英寿編『宋人文集の編纂と伝承』所収		pp.167-193	無
5	萩原 正樹	「詞譜」の誕生と発展	単著	2018年2月	中国書店、東英寿編『宋人文集の編纂と伝承』所収		pp.317-349	無
6	萩原 正樹	《和晏叔原小山楽府》探論	単著	2018年3月	社会科学文献出版社、南開詩学、第1輯			有
7	萩原 正樹	詞籍「提要」訳注稿(七)	共著	2017年12月	日本詞曲学会、風絮、第14号	日本詞曲学会	pp.225-234 pp.248-251	無
8	萩原 正樹	龍榆生編選『唐宋名家詞選』北宋編(二)	共著	2018年3月	日本詞曲学会、風絮、別冊	日本詞曲学会	pp.58-102 pp.238-260	無
9	松本 保宣	「宋人を中心とする唐代朝儀制度理解について—「入閣」とは何か?—」	単著	2017年8月	『唐代史研究』20号		pp.53-86	無

10	石井真美子	『銀雀山漢墓竹簡 〔貳〕』訳注(六)	共著	2017年11月	中国芸文研究会, 学林, 第 65号	村田進, 山内貴	pp.117-146	無
11	大形 徹	齊雲山真仙洞府十大洞 天・三十六所靖慮洞天 ・海中五嶽洞天・七十 二福地	単著	2017年6月	洞天福地編集委員会、好文 出版, 『洞天福地研究』第 7号		pp.30-50	無
12	大形 徹	齊雲山探訪記	単著	2017年6月	洞天福地編集委員会、好文 出版, 『洞天福地研究』第 7号	木崎香織・趙 婧雯・仇詩琪 ・大野朋子	pp.23-29	無
13	大形 徹	關於“有朋自遠方來”原 為“友朋自遠方來”之可 能性	単著	2017年9月	第5回世界漢字学会、三峡 大学。		pp.20-30	無
14	大形 徹	字説「凸」について	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、『漢字学 研究』第5号		pp.115-125	有
15	大形 徹	年号と貨幣—中国貨 幣、漢興・大夏真興あ たりを起点として—	単著	2017年10月	『2017年度 国際シンポ ジウム 年号と東アジアの 思想と文化』国立民俗歴史 博物館		pp.115-124	無
16	大形 徹	江戸期に奉法を伝えた とされる陳元賛	単著	2017年12月	一衣帯水 黄号(第4集)		pp.10-41	無
17	大形 徹	道教や民間信仰におけ る死生観	単著	2018年1月	懷徳堂記念会 懷徳 86 号、		pp.27-52	無
18	大形 徹	仙人の飲食	単著	2018年3月	大阪府立大学人文学会『人 文学論集』第36集		pp.1-41	無
19	山田 崇仁	楚の熊罥から武王まで の系譜の検討	単著	2017年	花園大学文学部、花園大学 文学部研究紀要 49		pp.83-100	
20	山田 崇仁	前漢前少帝の諱につい て	単著	2017年	立命館東洋史學會、立命館 東洋史學 40		pp.63-102	
21	山田 崇仁	金文通解 競之定銅器群	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、漢字學研 究第5号		pp.97-113	
22	高島 敏夫	冊令(命)形式金文の 歴史的意味—殷周革命 論ノート(四)	単著	2018年3月	『立命館白川静記念東洋文 字文化研究所紀要』11号		pp.1-20	無
23	富 嘉吟	林羅山『歌行露雪』に ついて	単著	2018年3月	『立命館白川静記念東洋文 字文化研究所紀要』11号		pp.39-72	有
24	王 睿	南宋選本<唐詩絕句>新 論		2017年	『古籍整理研究學刊』 2017年第4期			
25	庄 捷淳	『とりかへばや物語』 の「異性装」—女主人 公のジェンダーコード の分析を中心として—	単著	2017年8月	『立命館文学』中川成美先 生退職記念論集 652号、 立命館大学人文学会		pp.128-137	有
26	笠川 直樹	金文通解・曾侯與鐘	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、『漢字学 研究』第5号		pp.35-70	有
27	村上 幸造	轉注について	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、『漢字学 研究』第5号		pp.1-13	有
28	三輪 健介	金文通解 聞尊	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、『漢字学 研究』第5号		pp.15-34	有
29	佐藤 信弥	金文通解 楚公逆鐘	単著	2017年9月	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所、『漢字学 研究』第5号		pp.71-96	有
30	高田 宗平	淺論日本古籍中所引 《論語義疏》—以《令 集解》和《政事要略》 爲中心	共著	2017年5月	張伯偉編『域外漢籍研究集 刊』第15輯		pp.271-286	有
31	高田 宗平	叡山文庫眞如藏所藏 『臺宗三大部外典要勘 鈔』諸該書志解題	共著	2018年3月	『古典學集刊』第2輯、華 東師範大学出版社	石立善主	pp.399-416	有
32	重信あゆみ	『山海經』における図 像の表現	単著	2018年1月	形の文化研究			

33	増井 寛也	ジュシェン ー マンジ ユ史筭記二題	単著	2017年8月	『立命館東洋史学』第40号			
34	横大路綾子	『小右記』註釈(11) 長和4年4月25~27日条	共著	2017年12月	『古代文化』	惠板井文子・飯塚ひろみ	pp.421-426	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	萩原 正樹	《和晏叔原小山楽府》小考	2017年10月	東亜漢学国際学術研究会、仏光大学	
2	松本 保宣	「隋・唐・五代洛陽宮の政治空間について」	2018年3月	第2回日本洛陽学国際シンポジウム	
3	石井真美子	銀雀山漢墓竹簡「地典」譯注補	2017年7月	中国芸文研究会研究会、立命館大学敬学館232教室	
4	湊 宣明	シヤチハタ OSMO を活用した白川文字スタンプのプロトタイプ開発と評価	2018年3月	日本MOT学会第9回年次研究発表会山口大学	本田卓己・楊佳文・菊地啓太・中塚信雄
5	前田 亮	コンピュータによる文字処理の歴史と展望	2017年9月9日	土曜講座「白川学の展望と未来」	
6	後藤 文男	白川文字学に基づいた漢字教育の可能性—成り立ちとつながりで学ぶ漢字学習	2017年9月16日	土曜講座「白川学の展望と未来」	
7	高島 敏夫	古代中国における文字の誕生・継承・伝播の課程を跡づける—白川文字学第二世代としての展開	2017年9月30日	土曜講座「白川学の展望と未来」	
8	大形 徹	タイ・石垣島・中国の辟邪呪物	2017年6月	照葉樹林文化研究会 2017 大阪府立大学学術交流会館	山里純一・佐々木聡・大野朋子
9	大形 徹	白川学の今後の展望	2017年9月2日	土曜講座「白川学の展望と未来」	佐藤信弥
10	大形 徹	基調講演 關於“有朋自遠方來”原為“友朋自遠方來”之可能性	2017年9月	三峡大学(中国湖北省) 世界漢字学会	
11	大形 徹	鏡と太陽信仰—エジプトの鏡と朝鮮・中国の鏡	2017年10月	公益財団法人 古代学講座 第一回 京都文化博物館	
12	大形 徹	基調報告 年号と貨幣—中国貨幣、漢興・大夏真興あたりを起点として—	2017年10月	歴史民俗博物館、歴博国際シンポジウム「年号と東アジアの思想と文化」	
13	大形 徹	馬王堆の『胎産書』	2017年11月	女性学研究会 大阪府立大学 A15棟2階会議室	
14	大形 徹	パルメットと中国の仙薬、靈芝—エジプトの睡蓮と中国の芝草	2017年11月	公益財団法人 古代学講座 第二回 京都文化博物館	
15	大形 徹	鹿角考—中央アジアの鹿の角と中国の雲気文	2018年1月	公益財団法人 古代学講座 第三回 京都文化博物館	
16	大形 徹	龍角考—アフリカのキリンの角と殷周の龍の角	2018年2月	公益財団法人 古代学講座 第四回 京都文化博物館	
17	大形 徹	『莊子』逍遙遊篇と扶桑—実が太陽である樹木	2018年3月	公益財団法人 古代学講座 第五回 京都文化博物館	
18	李 日康	《詞律》対《詞綜》的吸収轉化及詞壇実践	2017年6月28日	中国社会科学院文学研究所主辦、文学芸術与社会学術研討会	
19	庄 捷淳	「かかる類もあるにこそは」—『とりかへばや物語』などの男装物語から読む女性の生き難さ—	2017年12月23日	東アジア漢文圏における日本語教育・日本学研究の新開拓—2017年暨南大学国際シンポジウム—、中国・広州・暨南大学	
20	庄 捷淳	日中比較文学の視点から見る『とりかへばや物語』—「雌木蘭替父從軍」「女状元辞凰得鳳」との比較を中心に—	2017年6月18日	日本比較文学会第79回全国大会、山形大学	
21	笠川 直樹	多友鼎銘文釋讀	2017年10、12月、2018年1月	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
22	高田 宗平	論日本中世年號勘文所引《藝文類聚》	2017年12月	古寫本經典的整理與研究國際學術研討會、上海師範大学哲学与法政学院・上海師範大学中国古典学研究中心、	

				中国 上海、上海師範大学徐匯校区東部新文科大樓	
23	高田 宗平	年号勘文の訓法—廣橋家旧蔵記録文書典籍類の中から—	2017年5月21日	訓点語学会、京都大学文学部	水上雅晴・近藤浩之・石井行雄
24	佐藤 信弥	始祖伝説としての「太公望」	2017年5月27～28日	第66回東北中国学会大会、弘前大学	
25	佐藤 信弥	商周金文中「蔑歴」之作用	2017年9月15～18日	世界漢字学会第五届年会“漢字文化圏各表意文字類型調査整理研究報告”国際學術研討会、三峡大学(中国)	
26	佐藤 信弥	始祖伝説としての「太公望」	2017年4月15日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
27	佐藤 信弥	漢字学研究会研究成果報告	2017年4月22日	白川静記念東洋文字研究所白川静博士没後十年企画「研究成果報告会」、立命館大学衣笠キャンパス	大形徹
28	佐藤 信弥	白川文字学の今後の展望	2017年9月2日	立命館土曜講座「白川学の展望と未来」、立命館大学衣笠キャンパス	大形徹
29	大野 裕司	扱日(日選び)の日中比較研究—江戸時代の日選びマニュアル前田東齋『諏吉便覧指南』について	2017年8月20日	第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、於中国・延辺大学東部教学楼	
30	重信あゆみ	『山海経』における西王母図像	2017年10月7日	中国学会、山形大学	
31	重信あゆみ	『山海経』における図像の再現	2017年6月25日	形の文化会	
32	秋山陽一郎	榮仲方鼎	2017年5月6日、6月17日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
33	草野 友子	安徽大学蔵戦国竹簡について	2017年7月16日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
34	福田 哲之	清華大学蔵戦国竹簡の字迹分類	2017年7月16日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
35	末次 信行	尊	2017年7月22日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
36	松井 嘉徳	吳虎鼎	2017年9月9日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
37	福田 哲之	北大漢簡『蒼頡篇』の編聯復原に関する試論	2017年11月18日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
38	草野 友子	北大漢簡『周訓』の思想的研究—『詩』の引用を中心に—	2018年1月20日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	
39	村上 幸造	上古音概説—通仮字を知るために—	2018年2月17日	漢字学研究会、キャンパスプラザ	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第52回漢字学研究会 【新出金文講読】 佐藤信弥「始祖伝説としての「太公望」」	キャンパスプラザ 京都	2017年4月15日	15名	
2	第53回漢字学研究会 【新出金文講読】 秋山陽一郎「榮仲方鼎」	キャンパスプラザ 京都	2017年5月6日	15名	
3	第54回漢字学研究会 【新出金文講読】 秋山陽一郎「榮仲方鼎」	キャンパスプラザ 京都	2017年6月17日	15名	
4	第55回漢字学研究会 【新出金文講読】末次伸行「尊」	キャンパスプラザ 京都	2017年7月22日	15名	
5	第56回漢字学研究会 【新出金文講読】松井嘉徳「吳虎鼎」	キャンパスプラザ 京都	2017年9月9日	15名	
6	第57回漢字学研究会 【新出金文講読】笠川直樹「多友鼎」	キャンパスプラザ 京都	2017年10月8日	15名	
7	第58回漢字学研究会 【新出金文講読】福田哲之「北大漢簡『蒼頡篇』の編聯復原に関する試論」 佐藤信弥「2016年新公表の出土文献」	キャンパスプラザ 京都	2017年11月18日	15名	

8	第59回漢字学研究会 【新出金文講読】笠川直樹「多友鼎」	キャンパスプラザ 京都	2017年12月16日	15名	
9	第60回漢字学研究会 【新出金文講読】草野友子「北大漢簡『周剛』の思想史的研究—『詩』の引用を中心に—」笠川直樹氏「多友鼎」	キャンパスプラザ 京都	2018年1月20日	15名	
10	第61回漢字学研究会 【新出金文講読】村上幸造氏「上古音概説—通仮字を知るために—」	キャンパスプラザ 京都	2018年2月17日	15名	
11	照葉樹林文化研究会 2017	大阪府立大学学術 交流会館	2017年6月	30名	
12	『老子』を読む	上本町近鉄百貨店 10階 上本町文化 サロン	2017年4月、5月、 6月	毎回10名前後	
13	『莊子』を読む	上本町近鉄百貨店 10階 上本町文化 サロン	2017年7月、8月、 9月、10月、11月、 12月、2018年1月、 2月、3月	毎回10名前後	
14	東洋の漢字文化と白川静	京都アスニー	2017年10月	550名	京都市
15	『説文解字』を読む会（計20回）	藤本彩雲堂宅 （毎月2回）	2017年4月から 2018年3月	毎回7名	『説文解字』を読む会（計20回）
16	白川静博士没後十年企画 「文字講話」特別上映会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2017年10月から毎 月実施	毎回20～30 名程度	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	杉橋 隆夫	天皇の代替わり—米英における昭和 天皇逝去の報道を巡って（講演）	東京香榭会、室町砂場	2017年10月5日
2	杉橋 隆夫	京都の「鎌倉」時代—「平安」時代の 終焉（講演）	国際京都学学会、ホテルモントレ京都	2017年11月21日
3	杉橋 隆夫	「平安時代」の終焉—「平安」でな かった平安京（公開講座）	大阪・京都文化講座 立命館大阪キャンパス	2017年5月15日
4	杉橋 隆夫	白川静先生没後十年事業「漢字と書 一日中韓のはざまと女性」（シンポジ ウム）	立命館大学衣笠キャンパス	2017年12月16日
5	杉橋 隆夫	「白川文字学の中核 興」「特集テ マから『京』」「特集テーマから『心 （こころ）』（コラム掲載）	『RADIANT』6、7、8号	2017年7月、11月。2018年3月
6	石井真美子	古くて新しい出土文献研究	ライスボールセミナー、創思館カンファレンス ルーム	2017年5月30日
7	大形 徹	白川文字学 学生が考察 3 大学 120人 福井で集中講義	福井新聞	2018年3月1日
8	笠川 直樹	漢字教育士講座	姫路中学校	2017年4月から 計12講座
9	佐藤 信弥	解説：甲骨文・金文・簡牘	『漢字文献情報処理研究』第17号掲載	2018年1月25日発行
10	佐藤 信弥	姫路市立生涯学習中学校立命館コ ース「漢字学総論II」	姫路市立生涯学習中学校	2017年12月25日・2018年2月26日
11	高島 敏夫	連続公開講座《甲骨文を通して殷代 社会に分け入る》全3回	立命館大学衣笠キャンパス	2017年7月～2018年1月
12	久保 裕之	草津漢字探検隊 親子で漢字の成り 立ち学ぶ	産経新聞	2017年6月18日
13	杉橋 隆夫	「武田鉄矢の思えば遠くへ来たも んだ～母のふるさと阿蘇、そして日本 —幸せな県へ～	BS日テレ	2017年7月13日
14	芳村 弘道	五郎ワールド	読売新聞	2017年11月11日
15	後藤 文男	漢字講座6回	大阪府河内長野市市民講座 「くろまる塾」	2017年7月～8月
16	後藤 文男	藝に学ぶ（講演）	第六回伝統文化をつなぐ会	2017年12月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	萩原 正樹	宋人文集の編纂と伝承に関する総合的研究	基盤研究(B)	2014年4月	2018年3月	分担
2	萩原 正樹	『詞律大成』の総合的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
2	大形 徹	タマシイの観点からみた中国を中心とする東アジア辟邪文化の総合的研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
3	大形 徹	中国道教における聖地と巡礼に関する総合的調査と研究	基盤研究(B) (代表、専修大学土屋昌明)	2016年4月	2019年3月	分担
4	落合 淳思	甲骨文字から楷書に至るまでの漢字の歴史的機能変化	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
5	草野 友子	中国新出土文献から見る「故事」の変遷と展開	若手研究 (B)	2016年4月	2020年3月	代表
6	佐々木 聡	中国近世社会における占書の流布と怪異観の形成—明清の天文五行占を中心に	特別研究員奨励費	2015年4月	2018年3月	代表
7	佐々木 聡	タマシイの観点からみた中国を中心とする東アジア辟邪文化の総合的研究	基盤研究 (C) (代表 大形徹)	2016年4月	2019年3月	分担
8	佐々木 聡	前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究	基盤研究 (B) (代表 水口幹記)	2016年4月	2019年3月	分担
9	佐藤 信弥	甲骨文字から楷書に至るまでの漢字の歴史的機能変化	基盤研究 (C) (代表 落合淳思)	2016年4月	2019年3月	分担
10	高橋(前原)あやの	宋代を中心とする天文占書の研究	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
11	高橋(前原)あやの	前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究	基盤研究 (B) (代表 水口幹記)	2016年4月	2019年3月	分担
12	中村 未来	中国出土文献による聖賢故事と経書の研究	若手研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
13	佐藤 信弥	甲骨文字から楷書に至るまでの漢字の歴史的機能変化	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	分担
14	富 嘉吟	和刻本唐人別集の総合研究	研究活動スタート支援	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	萩原 正樹	『唐宋名家詞選』唐五代北宋篇研究	橋本循記念会調査・研究助成	2015年5月	2018年3月	分担
2	萩原 正樹	明治大正期における、詩詞を通じた日中韓文人の交流についての総合的研究	アジア・日本研究推進プログラム	2017年4月	2020年3月	代表
3	萩原 正樹	『玉釧録』訳注作成とそのジェンダー表象という視点からの研究	国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究助成プログラム	2017年4月	2018年3月	代表
4	萩原 正樹	甲骨・金文文字を元にして製作した実用書体の検討	シヤチハタ株式会社からの委託研究	2017年8月	2018年8月	代表
5	芳村 弘道	和刻本唐人別集の総合研究	人文科学研究所助成プログラム	2017年4月	2020年3月	代表
6	富 嘉吟	和刻本唐人総集の総合研究	ヒロセ国際奨学財団	2017年11月	2019年11月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								